

金沢支部長 許斐 真也 (S62 年卒)

横浜市金沢区は横浜市の南端に位置し、東は東京湾に面し、南は横須賀市、逗子市、鎌倉市に、西は栄区に北は磯子区に接しています。区の大部分は起伏の激しい丘陵地で概ね100m前後の山が入り組んだ地形になっています。

特徴としては、横浜市内で唯一の自然海岸が残る野島公園のほか、海の公園、八景島、金沢自然公園など、海・山両方の豊かな自然に恵まれています。

また、鎌倉文化を現代に伝える県立金沢文庫、称名寺に代表される歴史的・文化的資産や名所・旧跡が数多く残っており、これら数多くの地域資源を楽しみに年間約700万人の観光客が、金沢区を訪れるようになりました。

さらに、関東学院大学と横浜市立大学の2つの総合大学があり、約1万5千人もの学生が学ぶ学園都市です。教員を目指す学生を対象に、アシスタントティーチャーやボランティアなどで大学との連携を独自に図っている学校も多いです。

以上のように恵まれた環境の中、金沢支部は小学校22校、中学校10校、県立金沢養護学校合わせて校内会員校内会員ともおよそ80名ずつ、計160名ほどとなっています。

学校現場では、さまざまな職歴を経て教員になった方々が年々増えており、会員がいない学校もあります。また、近年新会員の着任もきわめて少ない現状です。

そんな中、2月22日、芦川会長をお招きして金沢支部総会・懇親会を開催しました。校内外合わせて16名の皆様のご参加をいただき、和やかなひと時を過

ごすことができました。芦川会長がご挨拶の中で機構改革など大学の現況について情報を下さったほか、先輩方のご近況を報告してくださいました。ご退職後様々な趣味などで人生を満喫されている方、地域でご活躍されている方、学校・教育関連のお仕事をされている方（私もお世話になっています）、それぞれでしたが、皆様、充実した毎日を過ごしておられるようでした。また、先輩方が現役のころに私たち現役がお世話になったことはもちろん、思わぬつながりがあったことが分かったりするなど、この業界特有の絆に深く感謝する時間にもなりました。

支部の課題としては、会員同士のつながりを広げることがあげられます。昨年度も金沢支部総会・懇親会に参加させていただきましたが、参加者は昨年度、今年度ともほぼ同じでした。もちろん、引き続きご参加いただけることはとてもありがたいと、ご挨拶できることはうれしいものです。1年ぶりにお会いでき、ほっとした気持ちにもなり、楽しく過ごすことができました。昨年度私は、1校内会員として参加させていただきましたが、友松会のつながりの楽しさ、ありがたさを感じることができました。今年度支部長となり、できるだけ多くの会員の皆様に同じ気持ちを味わってほしいと願っています。まずは、ひと声かけて少しずつでも参加者を増やしていこう、と、ご参加いただいた現職校長3人で約束しました。この一歩から、活動が充実していくことを目指していきたいと思えます。